

海外視察旅行の見直しなど 議会改革が前進

1月18日、今期最後の議会活性化検討委員会が開かれました。日本共産党市議団は、市民に開かれた大津市議会をつくるため、継続的に、民主的な運営を進める議会改革の提案を各議員・会派に申し入れ、取り組んできました。この議会活性化検討委員会もその成果の1つで、他にも議会広報編集委員会の設置をふくめ、この4年間だけでも様々な改革が前進しました。

■ 情報公開が前進 ■

議会運営の面では、市議会のインターネット中継をおこない、いつでも録画が見られるようになりました（08年度より）。

本会議での質問の発言順位は、それまで議長によって決められていたものが、

日本共産党の道理ある 提案が実現へ

—— つかもと正弘 市議



議会で発言する つかもと市議

■ 民主的な議会を ■

各派代表によるくじ引きで決定することに改められました。また、質問方式も一問一答方式など、傍聴している市民にわかりやすい方式を導入（10年2月議会より）。

委員会の傍聴も原則公開となり、議会広報紙への質問議員名の掲載など、議会の公開・情報提供がいっそう充実しました。

毎年300万から500万円もの予算を使っておこなわれていた姉妹・友好都市への海外視察は、友好記念事業などの招待を受けるなど必要な場合に限ることとし、来年度は実施しないことになりました。

議会での政策形成の場の設置、会派の人数に応じた委員長・副委員長のポストの配分をおこなうことなどを確認して、今期の検討委員会の協議は終了。次期の議会でも同様の協議の場を設け、傍聴席の改善や議会報告会の実施などを検討することを申し送ることとなりました。

市民本位の 市営葬儀事業を

杉浦 ともし子市議

市は、今年度、指定管理者制度の導入も含めた市営葬儀事業のあり方を見直すことを表明しました。

昨年7月に「葬儀事業のあり方検討委員会」を設置し、この間5回の委員会を開催。市民意見を公募したのち、今月末には最



(裏面) (つづく)

ホームレス（生活困窮者） 越冬支援

佐々木しょういち市議



年末恒例となってきたホームレス支援。今回は昨年12月26日に「大津夜まわりの会」を中心に規模も拡充され、餅つきや生活用品の提供などがおこなわれました。私も石黒市議や、ふしき県会議員などとともに参加。

「派遣切りされて、ハローワークへ行っても、自分ができるのは派遣しか

臨時市議会が 開かれます

1月31日（月）（予定）

国の臨時雇用対策などをうけた補正予算案を審議します。

ぜひ傍聴に
おこしてください



ない。でもあんな思いは二度とない。と、何とか別の仕事を探そうと懸命になっている40歳代の男性。「友だちもないし、1日話すこともなく孤独だ」と精神的にも追い詰められている30歳代の男性。「職さえあれば」とみなさん言われます。

使い捨て自由の派遣労働は、働きざかりの人たちを路頭に迷わせています。「非正規切り」をやめさせるとも、正規雇用を拡大するよう大企業と経済界に対して政府が強く指導することが必要です。同時に目の前の失業・生活困難への迅速な対応が求められます。

(表面からのつぎ)

終報告が提出される予定です。

市営葬儀は、昨年の不正請求事件により自宅葬が休止されたままで、市民のみなさんからはくり返し再開を求める声や、市営葬儀事業そのものへも存続を求める声が寄せられています。

民間事業者の進出増加、葬儀に対する考え方や市民ニーズの変化などが顕著になっており、市営葬儀事業も市民に提供するサービスの見直しは必要です。葬儀ホールの活用方法やサービスの充実、また事業の透明性を確保するためのしくみづくりを、市民福祉の向上という、市営葬儀事業の目的に照らして行なっていくことが大切です。

市営葬儀を、市民生活に欠かせない事業として存続させ、市民目線での見直しを求めています。

市民アンケートに続々回答 願い実現にがんばっています



石黒 かづ子市議

日本共産党は、昨年末から新年にかけて各ご家庭に市民アンケートを配布しました。

予想を超える返信が寄せられ、アンケート用紙には、びっしりと政治に対する怒りや要望が書きこまれていました。「暮らしが苦しくなった」と回答された方が6割を超え、雇用対策や国保料の値下げ、大企業や高額所得者の減税中止などを要望されています。地域要望は、道路・側溝の整備、カーブミラーの設置、公共交通の充実、保育所の待機児解消など、多岐に渡っています。

いま党市議団は、それぞれ現地調査



←車道に下りなければ通れない歩道

に回らせていただいています。写真はその1つ、真ん中に電柱が立ち、通れない歩道(浜大津の電車通り)です。必要などころについては早急に改善できるよつ力を尽くし、住民の命と暮らしを守る大津市としての対応を求めています。

ごみ減量実践中



八木 修市議

我が家では、99年(平成11年)夏頃に電動式のごみ処理機を購入し、03年頃からはEMポカシとコンポストを併用して(どちらも微生物を使った生ゴミの堆肥化)、生ゴミを自家処理してきました。市の収集には紙ゴミ等々を出す程度です。

その効用は、夏場の生ゴミ臭から解放されることが1番です。また、1回に出すゴミ量は従来の半分以下に。堆肥のせい、庭には小粒ながら甘いビワが沢山出来ています。

場所はとりません。45リッターのポリバケツより2周りほど大きいコンポスト容器と10リッターほどのポリバケツ(EMポカシ器)の2つを建物横の土の上に置いてあります。生ゴミはまさに「生きもの」で適切に管理をしていけば、上手に「土」に還ってくれます。

ささやかな実践ですが、市の「市民のゴミ減量意識を高めるための有料化」という理屈をはね返し、「有料化でなくゴミ減量政策の充実を」と大きな声で訴えています。

50年後100年後も きれいな景色を残したい

岸本 のり子市議

びわ湖岸に乱立する高層ビルやマンションのために「せつかくの、びわ湖が見えない」との声が、市民のみなさんから寄せられています。日本共産党市議団は、びわ湖の景観保全のためにも、50年後100年後を見通した高



湖岸にそびえたつ県警本部。高さは59メートルあります。

さ規制を行うことを求めています。こうした中、大津市都市計画審議会が、ようやく45メートルを上限とする高さ規制を行うことが打ち出され、特に、近江八景で知られる堅田の浮御堂や瀬田の唐橋周辺などは厳しく規制されます。

しかし、財産権を侵害するとの理由で、すでに基準を超えて建てられている県警本部や大津市民病院など市内19件の建築物については、今後改正予定の「大津市景観計画」を遵守すれば、立て替え時にも高さ規制の対象とはなりません。

お隣の京都市が策定した条例は建て替え時も例外を認めています。大津市でも、同様の規制をおこなうよう求めています。

お知らせ

詳しい日程は
決まり次第
ホームページで
お知らせします。

↓市会議員団ホームページ
<http://www.otsu-jcp.net/>

◆2月定例会市議会の日程(予定)

- 2月 21日(月) 開会(議案提案)
- 28日(月) 各派代表質問
- 3月 1日(火)~3日(木) 質疑・一般質問
- 7日(月) 総務常任委員会(予算審査)
- 8日(火) 教育厚生常任委員会(予算審査)
- 9日(水) 生活産業常任委員会(予算審査)
- 10日(木) 施設常任委員会(予算審査)
- 14日(月) 各常任委員会(議案審査、所管事務調査)
- 16日(水) 各特別委員会
- 18日(金) 閉会(議案採決)